



## 2021年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年7月12日

上場会社名 株式会社ウィッツ 上場取引所 東  
 コード番号 4440 URL <https://www.witz-inc.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 服部 博行  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 脇田 周爾 TEL 052-220-1218  
 四半期報告書提出予定日 2021年7月12日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年8月期第3四半期の連結業績（2020年9月1日～2021年5月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期第3四半期	1,610	△2.3	199	△10.5	214	△12.4	150	△5.8
2020年8月期第3四半期	1,647	△6.6	222	6.4	245	20.5	159	21.6

(注) 1. 包括利益 2021年8月期第3四半期 150百万円 (△6.7%) 2020年8月期第3四半期 161百万円 (20.1%)

2. 会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、2020年8月期第3四半期の財務数値については遡及適用後の数値を記載しております。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年8月期第3四半期	36.64	36.04
2020年8月期第3四半期	39.29	38.39

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年8月期第3四半期	2,592	2,058	78.5
2020年8月期	2,439	1,893	76.7

(参考) 自己資本 2021年8月期第3四半期 2,036百万円 2020年8月期 1,871百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年8月期	—	0.00	—	6.00	6.00
2021年8月期	—	0.00	—	—	—
2021年8月期（予想）	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2021年8月期の連結業績予想（2020年9月1日～2021年8月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,166	△2.6	253	△19.3	269	△18.8	186	△16.2	45.30

（注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、対前期増減率は遡及適用後の前期数値を用いて算定しております。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社 （社名）一、除外 一社 （社名）一

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、四半期決算短信（添付資料）7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、四半期決算短信（添付資料）7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年8月期3Q	4,141,400株	2020年8月期	4,054,000株
② 期末自己株式数	2021年8月期3Q	126株	2020年8月期	30株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年8月期3Q	4,094,401株	2020年8月期3Q	4,053,981株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 新型コロナウイルス感染症に関するリスク情報 .....	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

研究開発に係る補助金については、従来、販売費及び一般管理費の「研究開発費」から控除する方法によっておりましたが、当第3四半期連結会計期間より営業外収益の「補助金収入」として計上する方法に変更したため、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値で前年同期との比較分析を行っております。

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により国民の行動及び経済活動が制限され、生産活動の停滞、個人消費の低迷、雇用環境の悪化などを招き、依然として厳しい状況が続いております。

一方で、他先進国においては、限定的ではあるものの経済活動の再開など、回復の兆しが見えはじめております。

このような経済環境の下、主たる事業分野である自動車関連の組込ソフトウェアは継続的な影響を受けたものの、一部の顧客において受注回復の兆しが見えはじめております。

また、当社が優位性を発揮するCASE（Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric）は、自動車技術変革のキーテクノロジーであり、自動車メーカーを中心として各種開発の需要は高止まりの状況にあります。そのため、自動運転/先進安全シミュレータ開発や組込セキュリティサービス等の先進・高付加価値な事業分野は好調に推移しました。

さらに、産業機械分野においても、需要が活発な半導体関連及び工作機械のセキュリティ対応などに関する受注が増加しておりますが、他の分野の減収分を吸収しきれず、売上高は前年同期比減収となりました。

営業利益以下の各利益においては、主に売上高の減少の影響を受けたことに加え、成長事業分野として位置付けているMaaS関連の先行投資プロジェクト実施によるコスト増、新規顧客開拓及び新事業創生のための営業及び研究開発活動の実施により、それぞれ前年同期比減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 1,610,026千円（前年同期比2.3%減）、営業利益 199,348千円（同10.5%減）、経常利益 214,732千円（同12.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 150,029千円（同5.8%減）となりました。

今後の成長に向け、これまで培ってきた組込技術の優位性を発展させつつ、移動サービスとエンタテインメントの融合したプラットフォーム開発やDXに関する支援サービスなど人員工数に依存しないサービス事業創出のための研究開発投資を強化しております。

具体的には、デジタルツイン技術（DX 関連）を活用した、工場の仮想空間シミュレーションや移動時間を楽しむに変える、エンターテインメント融合型 MaaS（Mobility as a Service）に関する研究開発に注力しております。

研究開発投資を積極的に行っていくと、売上に貢献できる社員を研究開発に従事させるため一定の機会損失が発生することに加え、研究開発費用が増加するため、短期的には利益を圧迫しますが、これらの投資は当社の今後の事業拡大に大きく寄与する投資であると考えております。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、2020年9月1日付の組織変更に伴い、報告セグメントの名称を組込システム事業から組込サービス事業へ、機能安全開発事業からトラストシステムコンサルティング事業へそれぞれ変更しております。

#### 1. 組込サービス事業

当セグメントにおいては、自動車・産業製品向けの制御ソフトウェア、リアルタイムオペレーティングシステムなどのソフトウェアプラットフォーム提供、組込セキュリティなどの受託を行っております。経営成績の状況としましては、産業機械の分野において新規顧客開拓などにより受注が増加したものの、前述した経済活動の停滞により、主要事業である自動車関連の組込ソフトウェアの受注が完全には回復していないため、前年同期比で減収減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高は870,775千円（前年同期比3.6%減）、セグメント利益は225,774千円（同6.1%減）となりました。

## 2. システムズエンジニアリング事業

当セグメントにおいては、自動車関連のシミュレーション及びモデルベース開発技術とデジタルコンシューマ機器向けの基盤技術の提案・開発・提供を行っております。経営成績の状況としましては、自動車関連のシミュレーション技術の提供が好調に推移し、売上高は前年同期比増収となりました。セグメント利益につきましては、増収による利益貢献があったものの、主に成長事業分野として位置付けているMaaS関連の先行投資プロジェクト実施によるコスト増が影響し、前年同期比で減益となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高は596,209千円（前年同期比7.0%増）、セグメント利益は166,849千円（同12.3%減）となりました。

## 3. トラストシステムコンサルティング事業

当セグメントにおいては、近年の電子機器装置の安全性を担保するために必要なコンサルティング・安全性分析支援と安全性の高いソフトウェア開発を行うためのソフトウェア開発プロセス作成の支援を行っております。経営成績の状況としましては、当セグメントの事業が市場経済の悪化の影響を先行的に受けやすいことに伴い、受注に至るまでの期間の長期化や受注規模の縮小などの影響を受け、前年同期比で減収となりました。セグメント利益につきましては、減収による影響があったものの、社内外のリソースを見直し更なるコストの削減等を図ることにより利益率を向上させ、前年同期比で増益となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高は110,059千円（前年同期比13.5%減）、セグメント利益は45,897千円（同17.1%増）となりました。

## 4. その他

当セグメントにおいては、株式会社アトリエ、株式会社ヴィッツ沖縄が含まれております。経営成績の状況としましては、前述した経済環境の悪化等により前年同期比で減収となりました。セグメント利益につきましては、保険料や旅費等の経費削減に努めたものの、減収の影響に加え、一部の子会社において稼働率が悪化し利益率を落とした結果、前年同期比で減益となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高は109,431千円（前年同期比5.9%減）、セグメント利益は8,678千円（同28.1%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

流動資産は、2,307,740千円（前連結会計年度末比6.8%増）となりました。主な内訳は、現金及び預金2,026,840千円（同12.9%増）、受取手形及び売掛金108,305千円（同45.1%減）、仕掛品129,651千円（同3.1%減）であります。

固定資産は、285,118千円（同2.7%増）となりました。主な内訳は、有形固定資産29,232千円（同1.9%減）、無形固定資産9,350千円（同9.0%減）、保険積立金133,799千円（同9.7%増）であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における総資産は、2,592,859千円（同6.3%増）となりました。

## (負債)

流動負債は、302,659千円（前連結会計年度末比7.1%減）となりました。主な内訳は、買掛金57,569千円（同13.9%増）、未払法人税等25,557千円（同62.9%減）、賞与引当金53,960千円（同47.1%減）であります。

固定負債は、232,175千円（同5.5%増）となりました。主な内訳は、長期未払金91,495千円（前連結会計年度末同額）、退職給付に係る負債139,042千円（前連結会計年度末比9.9%増）であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、534,834千円（同2.0%減）となりました。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、2,058,024千円（前連結会計年度末比8.7%増）となりました。主な内訳は、資本金603,267千円（同3.3%増）、資本剰余金537,757千円（同3.8%増）、利益剰余金895,620千円（同16.3%増）であります。

（3）新型コロナウイルス感染症に関するリスク情報

新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな開発案件において計画縮小や中止、開始時期の延期などが発生する可能性があります。また、当社グループ内で感染者が確認された場合には開発リソースが不足する可能性があります。これらのリスクが顕在化した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2021年1月13日に公表いたしました2021年8月期（2020年9月1日～2021年8月31日）の連結業績予想及び配当予想を修正しております。

売上高につきましては、前回予想では売上に貢献できる社員を研究開発に従事させるため一定の機会損失及び新型コロナウイルス感染症による売上高の減少を見込んでおりました。しかし、研究開発については社外リソースを活用するなど今期の計画を一部見直すことにより、社員の研究開発従事工数を削減し、機会損失の低下に努めました。また、下期以降一部の顧客において受注回復の兆しが見えはじめており、新型コロナウイルス感染症による売上への影響は少しずつですが解消されつつあります。これらの業況の変化により、売上高の下げ要因が緩和され、前回予想時のレンジ幅の上限値に近い金額に着地すると見込んでおります。

営業利益につきましては、上述の売上高に係る影響の他、従前より進めてきた研究開発の成果であるセキュリティ関連の知財販売やサービスなどの高収益案件の増加、外注を含めた人財リソースの配分見直し等による更なるコスト削減への取り組みなどにより売上総利益率の向上に努めて参りました。また、研究の一部を受託による売上プロジェクトとして実施したこと等に伴い研究開発費見込みを削減しました。これらの業況の変化により、営業利益は前回予想の上限値を上回る見込みであります。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上述の営業利益に係る影響の他、前回予想時には見込んでいなかった研究開発プロジェクトに係る補助金収入があったことにより、前回予想の上限値を上回る見込みであります。

また、配当予想につきましては、連結業績予想の各段階利益が前回予想を上回る見通しとなったことを勘案し、1株当たり4円から6円に修正いたします。

上記の業績予想及び配当予想の数値につきましては、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,794,855	2,026,840
受取手形及び売掛金	197,135	108,305
仕掛品	133,832	129,651
その他	35,776	42,942
流動資産合計	2,161,599	2,307,740
固定資産		
有形固定資産	29,803	29,232
無形固定資産	10,276	9,350
投資その他の資産		
保険積立金	121,924	133,799
その他	115,561	112,735
投資その他の資産合計	237,485	246,535
固定資産合計	277,565	285,118
資産合計	2,439,164	2,592,859
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	50,554	57,569
1年内返済予定の長期借入金	1,008	884
未払法人税等	68,901	25,557
賞与引当金	102,079	53,960
製品保証引当金	2,960	3,896
受注損失引当金	2,155	—
その他	97,960	160,790
流動負債合計	325,619	302,659
固定負債		
長期借入金	632	—
退職給付に係る負債	126,500	139,042
長期末払金	91,495	91,495
その他	1,449	1,637
固定負債合計	220,077	232,175
負債合計	545,697	534,834
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	583,789	603,267
資本剰余金	518,278	537,757
利益剰余金	769,914	895,620
自己株式	△71	△325
株主資本合計	1,871,910	2,036,320
非支配株主持分	21,556	21,703
純資産合計	1,893,467	2,058,024
負債純資産合計	2,439,164	2,592,859

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)
売上高	1,647,362	1,610,026
売上原価	1,081,392	1,039,778
売上総利益	565,970	570,247
販売費及び一般管理費	343,210	370,898
営業利益	222,759	199,348
営業外収益		
保険解約返戻金	1,648	2,722
保険事務手数料	684	780
受取手数料	674	114
補助金収入	23,250	9,508
その他	155	2,375
営業外収益合計	26,413	15,500
営業外費用		
為替差損	14	99
支払手数料	4,000	5
その他	52	12
営業外費用合計	4,067	117
経常利益	245,105	214,732
特別利益		
固定資産受贈益	—	4,073
特別利益合計	—	4,073
特別損失		
投資有価証券評価損	6,530	—
固定資産除却損	—	923
特別損失合計	6,530	923
税金等調整前四半期純利益	238,574	217,882
法人税等	77,204	67,270
四半期純利益	161,369	150,611
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,091	581
親会社株主に帰属する四半期純利益	159,278	150,029

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)
四半期純利益	161,369	150,611
四半期包括利益	161,369	150,611
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	159,278	150,029
非支配株主に係る四半期包括利益	2,091	581

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（補助金収入に関する会計方針の変更）

研究開発に係る補助金については、従来、販売費及び一般管理費の「研究開発費」から控除する方法によっておりましたが、当連結会計年度より当社グループの成長事業として位置づけているサービスビジネスに向けて積極的に研究開発を進めており、今後もこれらの投資を継続して実施していくにあたり、その取引規模や実態をより適切に表すため、当第3四半期連結会計期間より営業外収益の「補助金収入」として計上する方法に変更しております。なお、当連結会計年度においては、第1四半期及び第2四半期連結会計期間に補助金収入は発生しておりません。当該会計方針の変更は遡及適用され、前第3四半期連結累計期間については遡及適用後の四半期連結損益計算書となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第3四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費の「研究開発費」から控除していた23,250千円は、営業外収益の「補助金収入」として計上しております。営業利益は同額減少しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ影響ありません。

## (セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年9月1日至2020年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他(注)	合計
	組込サービス事業	システムズエンジニアリング事業	トラストシステムコンサルティング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	903,253	557,350	127,215	1,587,820	59,542	1,647,362
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	56,772	56,772
計	903,253	557,350	127,215	1,587,820	116,314	1,704,134
セグメント利益	240,364	190,315	39,202	469,882	12,066	481,948

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における研究事業の推進やソフトウェア開発の検証事業等であります。

## 2. 報告セグメント合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

売上高	金額
報告セグメント計	1,587,820
「その他」の区分の売上高	116,314
セグメント間取引消去	△56,772
四半期連結損益計算書の売上高	1,647,362

利益	金額
報告セグメント計	469,882
「その他」の区分の利益	12,066
全社費用(注1)	△269,556
その他の調整額(注2)	10,368
四半期連結損益計算書の営業利益	222,759

(注1) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

(注2) その他の調整額は、営業取引と営業外取引の消去時に生じる差額等であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2020年9月1日至2021年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他(注)	合計
	組込サービス事業	システムズエンジニアリング事業	トラストシステムコンサルティング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	870,775	596,209	110,059	1,577,044	32,981	1,610,026
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	76,449	76,449
計	870,775	596,209	110,059	1,577,044	109,431	1,686,475
セグメント利益	225,774	166,849	45,897	438,521	8,678	447,200

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における研究事業の推進やソフトウェア開発の検証事業等であります。

## 2. 報告セグメント合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

売上高	金額
報告セグメント計	1,577,044
「その他」の区分の売上高	109,431
セグメント間取引消去	△76,449
四半期連結損益計算書の売上高	1,610,026

利益	金額
報告セグメント計	438,521
「その他」の区分の利益	8,678
全社費用(注1)	△258,227
その他の調整額(注2)	10,376
四半期連結損益計算書の営業利益	199,348

(注1) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

(注2) その他の調整額は、営業取引と営業外取引の消去時に生じる差額等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## 4. 報告セグメントの変更等に関する事項

- (1) 第1四半期連結会計期間より、従来「組込システム事業」としていた報告セグメントの名称を「組込サービス事業」に、「機能安全開発事業」としていた報告セグメントの名称を「トラストシステムコンサルティング事業」に変更しております。当該変更はセグメント名称の変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの名称で記載しております。

- (2) 会計方針の変更に記載のとおり、研究開発に係る補助金については、従来、販売費及び一般管理費の「研究開発費」から控除する方法によっておりましたが、当第3四半期連結会計期間より営業外収益の「補助金収入」として計上する方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、前第3四半期連結累計期間のシステムズエンジニアリング事業のセグメント利益が12,703千円、その他の区分のセグメント利益が989千円減少し、全社費用は9,557千円増加しております。